



写真は「曾我兄弟」の舞

この日は、演目前の口上の後、舞台の両脇に控えた笛と太鼓、鉦などの軽快なお囃子に乗って小学生による舞「露払い」から始まり、能のように面を付けた演じ手が天地長久を祈って舞う「翁舞」、牛若と天狗の兵法比べを表すという勇壮活発な「鞍馬」など11演目が次々と披露され、観衆は、独特の小気味良いテンポで演じられる舞の数々に惜しめない拍手を送っていました。

郷土芸能「根子番楽」が8月14日、阿仁根子・阿仁公民館根子分館で公開され、地域住民や市内外から郷土芸能ファンが大勢訪れ伝統の舞曲を楽しみました。

根子番楽は古くから同集落に伝えられ、現在は根子番楽保存会や子ども会によって保存・継承されている民俗芸能。古来の神楽や能楽に起源を持つとも言われ、歴史的・芸術的に価値の高いことから、平成16年に国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年8月14日のお盆と、9月第2日曜日の根子神社祭典の際に保存会が公開しています。

国指定重要無形文化財 「根子番楽」



▲米内沢共有会による米内沢獅子踊り



▲前山郷土芸能保存会による奴踊り



▲川井郷土芸能保存会による駒踊り



▲李岱駒踊り会による駒踊り

各地区・集落で伝統芸能を披露

獅子踊り 駒踊り 奴踊り

北秋田市内で最も広く伝えられている芸能が獅子踊り、駒踊り、奴踊りで由来はほぼ共通しており、佐竹侯が常陸の国から秋田に国替えされたときに、家臣が君主を慰めるために考案された道中芸がルーツといわれております。

8月15日の雨で中止になった集落もありましたが、それぞれの保存会が行った会場には、集まった住民や帰省客などが、艶やかな奴や威勢のよい駒踊りなどが行われるたびに大きな拍手を送り、勇壮な踊りをカメラに納めるなど、故郷のゆく夏を楽しんでいました。



雨のため体育館で行われた「合川ふるさとまつり」の通り踊り



阿仁の花火大会

行く夏を惜しむお盆のイベント

今年は、一部雨のため中止のものもありましたが、市内各地区・集落で地域住民や帰省客の楽しみとなっているお盆のイベントや伝統行事が行われました。

合川地区では8月14日、「第39回合川まとも火、第30回合川ふるさとまつり」が合川橋付近と合川体育館を会場に開催され、市民や帰省客らが「まとも火」と「通り踊り」、「スペシャルステージ」などでゆく夏の夜を楽しみました。

「まとも火」は、古くから下小阿仁地域を中心に、春彼岸の中日の伝統行事として、墓地に灯かりをとすとともに、山の尾根づたいや沢づたい、あるいは川原にたいまつを灯し先祖の霊を我が家に迎えてもてなし、供養とともに豊年満作、家内安全を祈ってきたと言われていました。このまとも火を更に継承発展させ、人々がふるさとに帰省するお盆に阿仁川堤防に延々と灯かりをともし、先祖の供養と郷土愛を培う伝統行事として長く伝えられています。

阿仁地区では、阿仁の川原・夏の陣」と銘打った送り盆行事「第48回阿仁の花火大会と灯籠流し」が8月16日、阿仁河川公園で開かれ、地区内外から訪れた家族連れなどが先祖を供養するとともに、山間に響く花火を楽しみました。

灯籠流しは、お盆に帰ってきた死者の魂を現世からふたたびあの世へと送り出すために、死者の魂を乗せた灯籠を流す行事。花火大会に合わせ阿仁仏教会と同会灯籠流し奉賛会とが中心となって行われています。

あたりがお香の匂いと読経の響きに包まれる中、灯籠流しが始まり、各集落の檀家から持ち込まれた灯籠が係員の手で阿仁川にひとつずつ流されました。灯籠は約600個。夕暮れの薄明かりの中を川面に影を映しながら灯籠がゆらゆらと流れ、川辺で見守る見物客らもその幽玄な美しさを堪能していました。

先祖を供養する 幻想的な伝統行事

▼阿仁の灯籠流し



▶合川まとも火

